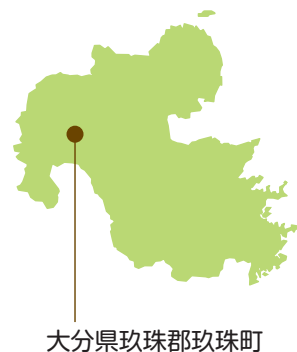


有限会社サザンガーデン

※2016年3月現在

代表者名	穴井 亮輔	資本金	3百万円
設立年	2002年8月2日	売上高	66百万円(2014年6月期)
事業内容	生産(花き)	経営規模	施設9,240㎡
従事者数	16人(うち女性12人。女性内訳:役員2人、一般職4人、常勤パート6人)		
女性活躍支援	[女性に配慮して取組んでいる制度] 休暇(産前産後・育児・介護)、短時間勤務制度 [女性に配慮して取組んだ環境整備] 施設設備関係(休憩室・屋内・野外トイレの設置)、重労働等の業務改善、技術・知識の習得支援		



経営概況

(有)サザンガーデンは大分県玖珠郡玖珠町にある、花き・花木の生産を行う農業法人である。創業は1992年で、2002年に法人化された。従事者は16名で、そのうち女性従事者が12名である。

現在、9,240㎡の施設で花きを生産し、さらに、300坪のハウスでシクラメンの販売も行っている。売上高は6,688万円(2014年度6月期)を計上する。

2014年度は花きの市場流通での平均単価が下落傾向にある中、卸売業者への契約栽培を増やすことで、売上高の下落幅を縮減することに成功している。



1. 女性活躍経営体に至る背景

当初、前社長の穴井重利氏は、父が営んでいたタバコ栽培に従事していた。その後、現専務取締役である妻の記代美氏とともに、鉢花経営に転換した。単価安などの課題や経営上の失敗もあったものの、徐々に経営を拡大し、2002年、財務の透明化や、経営の客観視と効率化のために法人化した。販売は市場流通を柱に、契約栽培や直売にも力を入れている。そのうち直売は購買者の80%が女性である。市場のニーズに対応し商品の余剰を回避するために、多種類・多品目の生産を行っている。

法人設立にあたっては、県や農林水産省の研修に積極的に参加し、担当会計事務所のアドバイスを受けながら体制を整えていった経緯がある。法人化前後の頃から特に女性が活躍するようになり、近年はより多くの女性を雇用しているが、きめ細かな管理能力が売上げにつながってきたことを実感している。女性の感性や丁寧な仕事ぶりをさらに発揮できるよう、職場環境の改善にも力を入れている。

2. 子育て・出産に関わる制度

地域の女性が働きやすい農閑期の季節雇用や、

フレックス勤務、短時間勤務制度を導入している。これによって全職員の約7割、一般社員の2/3を占める女性従業員が、安心して勤務できるように配慮されている。これらの制度と、風通しの良い労働環境作り、及び男女分け隔てない役員への登用によって、2002年の法人設立後は、女性一般職の平均勤続年数8年という安定した就労を実現している。

3. 女性職員の意見を経営に反映

記代美氏は、1994年に大分県女性農業経営士講座を受講し、その頃に家族経営協定を結んで、経理部門と雇用管理を一手に担っている。市場情報や種苗業者情報などの情報分析、経理数値の分析、及び年間計画に沿った生産と在庫管理により、ロスを最小限に抑えることを実現している。

売上を左右する品目や品種の選定については、女性職員からの栽培管理上の問題点を集約して参考にしている。女性の感性が発揮される色合いなどは、品種選定が重要なポイントとなっている。日々変化する市場のニーズに対応し、売上額を維持するのに、女性職員の意見は欠かすことのできないものとなっている。

この具体的な事例としては、クリスマスローズなどの鉢花流行を先読みしてオリジナル品種の育種に取組み、収益の安定化を実現させたことが挙げられる。さらに女性従業員の協力を得ながら、他に種苗登録数7品種や、登録までには至っていないが10数種類のオリジナル品種（固定種）を育成してきた実績がある。

記代美氏は「玖珠郡女性農業経営士会」の立ち上げ、その会長としての活動、さらに地域農業の男女共同参画推進活動への参加など、幅広く活躍している。

4. 女性が働きやすい環境の整備

働きがいのある雇用環境作りのため、当初より

女性労働力を念頭においた作業環境を整備してきた。底面給水方式の取り入れや、作業台を女性の働きやすい高さにするなどである。この品質管理システムにより、労働力の軽減化と生産性を高めている。休憩室、トイレ等の整備も行っており、労働環境のさらなる改善を図っている。

ミーティング結果を作業予定表に書き込むことで作業内容を「見える化」し、社内での情報共有と、意思疎通の取れた作業体系を構築している。

さらに、従業員を2班（苗花班・鉢花班）に編制し、その班長を毎月交代制で務めさせることで、仕事に対して責任感を持たせる工夫をしている。また役員と従業員、男女を問わず一人一人にハウスの担当を割り当て、毎日終業時間前の15分間は整理整頓・清掃時間に充てている。毎週末は30分間の園内点検作業を全員で実施するなど、性別等に関係なく協力し合える職場環境を形成している。

その他、福利厚生と研修を兼ねて2～3年に1度の割合で、北海道や沖縄などへ職員旅行を企画し、従業員と親睦を深めている。2012年からは社会保険労務士事務所と契約して社会保険などの充実を図り、より女性や高齢者が働きやすい環境を目指している。

審査委員の声

女性が中心となって働いている温室内の維持管理をできるだけ省力化し、女性の体格に合わせて設備を改良するなど、同じ作業を続けても疲れにくいよう工夫がなされている。仕事が終わった後、汚れた作業着をふだん着に着替えてから、保育所に子供を迎えに行ったり、買い物をしたりすることができるよう、温室に隣接して更衣室を設置している。

こうした様々な取り組みを積み重ねているところが、女性社員を大切にしていることがうかがわせる経営体である。